

# Book Review



## Impact Color and internal shape of Anteriores

山本尚吾 著

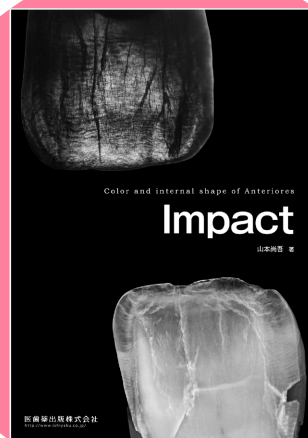


Reviewer

森岡千尋 Chihiro Morioka

(滋賀県・西大津歯科医院)

A4 判, 144 頁  
オールカラー  
定価 (本体 15,000 円+税)  
医歯薬出版刊



“Impact” ……まさに衝撃である。本書を初めて目にしたときの衝撃は、今でも鮮明に覚えている。本書には二面性がある。すなわち一つ目は科学 (Science) であり、二つ目は芸術 (Art) だ。まず、科学 (Science) という側面について検証してみる。

科学の基礎は言うまでもなく、観察だ。物事を辛抱強く、コツコツと地道に観察を続けることが重要であることは言うまでもない。著者である山本尚吾氏は、30 年という彼の歯科技工士人生における歳月のなかで、日常臨床の技工作業はもちろんのこと、世界中における講習会・講演会への登壇、それらの準備という非常に多忙極まりないなかで、忙しさにかまけることなくコツコツと地道な天然歯の観察を続け、今回の出版に至ったわけである。この出版は、一つの偉業を成し遂げたと言っても過言ではない。

入手が非常に難しい観察材料である抜去天然歯を入手することから始まり、その抜去歯のエナメル質、象牙質、歯髓腔といった部位ごとの個々の性質、それぞれの関係における光学特性を、さまざまな視点から、そしてさまざまな方向から光を入射させることで観察している。

また、その観察において非常に独自の視点を持っており、目のつけどころがシャープである。氏の観察は、前歯

部補綴における自然感を追求するその研究熱心さを発端とし、自身がそれを再現するセラミックスワークを手がけるうえで象牙質の構造、色調、キャラクター、さらに抜去歯を用いて形態との関連性に関する考察を行い、内部構造と歯冠色、形態との間に相関性を見たことで、そこに一定の法則を見出し、分類を行っている。氏の内部構造の分類に基づけば ① Mamelon Type (マメロンが顕著なもの)、② Box Type (歯冠形態の縮小型)、③ Devil Head Type (近遠心の隆線部から弓状に灰色の象牙質が観察されるもの)、Devil Head M Type (マメロン顕著型)、Devil Head B Type (歯冠形態縮小型)、④ Taper Type (非常に形態のテーパーが強く、透明感の部位が近遠心に強く感じられるもの) となる。山本氏はこれを日本審美歯科学会の機関誌にも発表しており (山本尚吾. 歯の内部構造による歯冠色のバリエーション. 歯科審美. 2012; 25(1).), 筆者もこの分類を勉強させていただき、山本氏の教え子でもある当院の院内歯科技工士と前歯部補綴症例を進める際にもこの分類を念頭に置くことで頭の中が非常に整理され、仕事がしやすいように感じている。

次に二つ目の、芸術の側面について検証する。本書では個々の写真が実に大きく、ふんだんに使われており、し

かも撮影品質は極上である。さらに上質の用紙を用いることで、まさに“天然歯写真集”と称するにふさわしいクオリティを持つ。また本書にも解説文が当然載っているが、仮にそれがなかったとしても、読者にはその写真が何を言いたいのかが、自然と伝わってくるであろう。

写真は“記録に残る”ものであり“記憶に残る”ものだと言われるが、前者については精密な写真を撮らねば意味がない。誌幅の都合もあるためその論考については関連記事に譲るが、その精密さを理解して口腔内写真を撮影できる者は、多くはないであろう。また、写真には「意図」が存在することも忘れてはならない。写真は、ただ写せば説得力が生まれるなどというたやすいものではない。「これを撮りたい」という強い意思を持って表現するからこそ写真に生命が吹き込まれ、写真そのものが自然と語りかけてくるのである。意図を持った表現はまさに“芸術”そのもののなのだ。

本書は日本語、英語、繁体中文の 3 言語で解説文が記載されていることから欧米やアジア圏にも読者が存在し、歯科界、そして自然科学の分野においても、ぜひとも後世に残すべき貴重な一冊と言えよう。この素晴らしい書に対する選評を私などが僭越にも行うことを最後にお許しいただければと思う。